

1. 活動報告（事務局 記）

—1月31日（金）山大工学部にて今年の親子自然観察隊の計画について協議しました。また、宇部市の生物多様性応援団や展示用ポスターへの対応についても協議しました。参加者は、関根・管・中本・田村・前田・寺本・原谷・原田会員と宇部市の川崎さんと河内さんでした。特別に8月23日の定常活動日に親子自然観察隊と生物多様性応援団の活動助勢を受け入れることになりました。

—2月2日（日）18名の多くの参加によって多彩な活動が出来ました。

エコアップ： ①湿地帯のスゲ草間引き

維持作業： ①水車水路入水口のU字溝3ヶ（180cm）据付

この工事でこの場所からの水漏れが解決しました。

②湿地帯からため池観察道の階段状通路2箇所の修復

その他： ①風呂バスによるカブトムシ幼虫養生所作成中

②椎茸ホダ木の整列

午後より車地会員による水路オーバフロー排水パイプ取り付けと水路に土砂流入防止処置施工しました。

—2月5日（水）吉富・渡辺・金子・事務局4名にて下記、非定常作業を行いました。

① 田んぼ用厩肥の運搬 軽4輪 3台

② 散策道破損部分用土嚢20袋製作、道具置場まで運搬済

③ 道具置場屋根茅葺用”茅”10束刈り取り、屋根上に運搬済

—2月15日（土）地区の人権大会と重なりましたが16名の参加者を得ましてたくさんの活動が出来ました。

①エコアップ ため池を主にスゲとイグサの間引き。

②カブトムシの養生所出来上がり。

③田んぼに厩肥を散布し吉富会員のトラクターにて荒お越し。

④パイプ倉庫の茅葺の仕上げをそれぞれ行いました。

午前中は山大工学部の中村女史と水野君及び環境政策課の河内さんの応援もありました。午後は水車の動バランス調整と軸受けのグリースアップを行いました。また宇部市道路管理係から頂いた路肩注意ポールをビオトープ横の市道に打ち込みました。

—2月22日（土）初集会で決めた非定常活動を行いました。8名の出席でした。

①椎茸原木に菌を打ち込みました。30本他運搬し養生保存しました。

2夏を過ぎの来年の暮れにはドンコ椎茸が出る予定です。

②水車の苔落とし清掃を午前と午後に分け行いました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

— 3月4日（火） 山大の学生により他の大学生の見学

◎行 事

— 3月2日（日） 維持活動（エコアップ、修復作業）

— 3月15日（土） 維持活動（修復作業）

— 3月22日（土） 非定常活動（修復作業）

3. 来訪者の声

— 2月1日— まだまだ寒いので魚たちも出ていないようです。里山ビオトープ二俣瀬をつくる会のみなさんますます頑張ってください！ 手伝い出来ればいいのですが！ K. S.

4. 会員の声【治水と生態系】（原田満洲夫 記）

忘れもしない平成21年7月21日（宇部市久保田市長の初登庁日）厚東川水系のゲリラ豪雨が早朝より発生。私は創立したばかりの二俣瀬地域自主防災会の会長の名のもとに9時半浸水予想地域の避難誘導に当たっていた。11時市の避難勧告令が発されたときは、木田橋下流は今も堤防を越えようとしていた。もちろん国道2号線木田秋葉地域は11時には小型車が通行止め20分をたたず大型車も通行止めで全く1級国道の機能を果たさなかった。その後も3時間は堤防からオーバーフローした水は住宅の床上浸水や田んぼの稲をなぎ倒したり相当な被害をもたらした。国道の開通も午後4時過ぎとなった。

以後校区の行政への要望事項として、主たる原因となった木田橋下流の雑木の伐採と浚渫を要望したのであった。かつて二俣瀬の名前の語源となった瀬を二分した中島を取り除いてこんな大洪水が起こらないよう中島を取り除いたにもかかわらず起こった災害を「ゲリラ豪雨による自然災害で仕方がない」とは言わせないために要望事項として対策要望項目として掲げたのであった。幸い平成25年と26年で一部ではあるが雑木の伐採と浚渫が済んだ。

一部ではあるが前回のゲリラ豪雨と同じようなことが起こっても一応安心出来る事であろう。

ところがである浚渫したおかげで魚類の隠れる場所がなくなりまた魚が食べる藻類もきれいに洗い流されて、全く魚影がなくなった。さらに昨年11月ごろ渡来したカルカモも30数羽が通学途中の児童を楽しませていた。しかし昨年末浚渫工事が始まってから全く姿を見せなくなった。水棲昆虫や生物学を研究する人や、自然環境学のオオソリテイに言わせれば生態系が乱れる環境破壊！と発することだと思う。

「あちらをたてばこちらが立たず」を地で行ったような光景である。

5. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 (管 哲郎 記)

(14) モートンイトトンボ *Mortonagrion serenion* Ris

イトトンボ科 *Coenagrionidae* Munz <ヒメイトトンボ属> *Agriiconemis* Selys

「山口むしの会」という山口県の昆虫愛好家により組織された団体があります。山口県における昆虫部門のレッドデータ・リストを県に提供し、県発行の「レッドデータブック」の昆虫部門を編集した組織（筆者の加入団体）ですが、2011年に「山口むしの会」単独で第2版目を発行し改定された昆虫類の中に、「モートンイトトンボ」の取り扱いについて、山口県では”絶滅”という処置がなされました。

50年ほど前、防府市台道地区で発見されていましたが、その後”圃場整備”が進み棲息地が壊されたようです。筆者を始め、むしの会の会員らにより再び20年前より本種を探し続けてはいたのですが発見に至らず、2011年発行の改訂版で絶滅の処置がとられました。

湿原や水田あぜなどを好み、4月より9月ごろまで棲息しますが、6月から7月にかけて多く見られます。体長3センチほどの、細くてとても小さなかわいいイトトンボです。成熟した♂トンボの腹の先端部が朱色に変色していますので、他のイトトンボとの区別は分かりやすいと思われます。

山口県でもハッチョウトンボのいる湿地などを調べているのですが、どういうわけか見つかりません。大変残念に思っていますが、なんとか発見したいと思っています。

この写真は、広島県の”八幡湿原”で撮影したものです。参考までに付記しておきます。会員の皆さんの中で、”このトンボ見た！”と報告されるかもしれませんから！



モートンイトトンボ (♂)



交尾連結



モートンイトトンボ (♀)

6. 会よりの連絡事項（事務局より）

(1)、新入会員のお知らせです。松本さんのご紹介です

氏名 河本カナエ 様

住所 山陽小野田市叶松1丁目6-23

7. 編集後記

ああ～忙しい、毎日このセリフの繰り返し、ア○ノミクスなのか…消費税増税で駆け込むなよ… この寒い中活動に参加されている方々には、大変申し訳なく思っております。私がビオトープ活動に参加出来ないのも、悪意のある会社と総理大臣のせいだと思っております？

（ 若林 正治 記 ）